

【様式①】令和3年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立市橋小学校

校長名 中田 雅章

市の重点項目	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
全職員や地域コミュニティとの協働による積極的な指導体制を確立し、「チームとしての学校」を実現する	<ul style="list-style-type: none"> □いじめ防止基本方針の確実実施 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止と早期発見 ・事案対応手順の確認と見届け □コミュニティスクール活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・子育てプログラムの周知、活用 ・土曜授業とコムスク2021の連携 ・地域講師による多様な活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート(3回)、情報提供アンケート(全学年1回)、STARアセスメント(2回)を実施、教育相談を行い未然防止に努めた。事後対応は保護者連絡及び3ヶ月の見届けを重点に、14件すべて確実にこなした。 ・運営協(5回)、支援推進委(2回)を行い、土曜授業と連携しながら地域活動を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参観を通して、先生方が努力していることがよく分かった。子どもたちは落ち着いていて、人間関係も良好なものではないか。 ・5年「健幸ウォーク」は、市橋を巡るともいい行事だった。3年「市橋音頭」の音源が欲しいという声は何件もあった。地域のつながりをうみだすいいきっかけになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策監を軸に、各種アンケート及び教育相談を通して早期発見に努める。また、事後対応の保護者連絡を徹底する。 ・土曜授業の活動に保護者の参加を促す。 ・保護者OB・OGの活動単位を新設し、地域活動部会に位置付ける。必要備品の購入は支援推進委の予算を活用する。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程を編成・実施・評価し、教育効果の最大化を図る	<ul style="list-style-type: none"> □児童の力を伸ばす教育課程編成 <ul style="list-style-type: none"> ・「できる」「わかる」方途の検討 ・総合的な学習の時間の見直し ・英語活動・英語授業の再検討 □ICTの有効活用 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルシティズンシップの育成 ・緊急時のリモート授業の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究会(3回)を実施し、方途について検討を行った。英語専科やALTを中心に全学年で楽しい英語活動を進めていけた。SDGsを意識した総合の年間計画を検討中である。 ・日常的にタブレットやデジタル機器を利用して学習を進め、緊急事態・まん防時には全学級でオンライン授業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の子どもの頃と比較し、中学レベルの内容を小学校で学んでいるような感じを受けた。先生が外国語への抵抗感を減らす工夫をしていた。 ・タブレットを使って瞬時に情報が共有されている点はすばらしい。紙では難しい「拡大」など、ICTが効果的に使われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究のテーマに「ICTの活用」を位置付け、有効活用の方法を検討する。 ・SDG'sを総合的な学習の時間に位置付けながら、年間指導計画を再整備する。 ・タブレット利用の約束を見直し、共通理解を図るとともに、学年ごとに指導する内容を見通せるよう全体指導計画を作成する。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、ソーシャルキャピタルを活用した学校づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> □精華中校区小中一貫教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問による児童生徒理解の促進 ・地域ボランティアへの参加 ・保護者交流の再開 □幼保小の連携の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児発達支援教室、エール連携 ・市橋保育所との相互理解の促進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で校外活動が大幅に縮小したため、異校種間の交流が最小限となってしまう。また、PTA家庭教育学級等は実施しているが、授業参観は1回しか行えなかった。 ・エールぎふとは、定期的に、時には事案をもとに情報を交換しながら、発達支援や家庭支援で連携を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中では、交流活動が大きく制限されることはやむを得ない。今後は状況を見ながら復活させる活動、形を変える活動を検討しながら進めたい。 ・気持ちが落ち着かない児童や理解がゆっくり児童の対応はたいへん。問題行動の対処は専門家との連携を大切にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3校区の教務を軸とした授業、掃除等の指導方法の統一や指導教諭を軸とした気になる児童の理解促進、PTA行事及び授業参観、学級懇談の再開を進める。 ・ハートフルサポーターの適正配置を行うとともに、スクールカウンセラーやスクール相談員の機会利用を促す。
教育環境と学校財務環境を整備・管理し、有効に運用する	<ul style="list-style-type: none"> □教育環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・児童増に向けての施設整備検討 ・新型コロナウイルス予防の徹底 ・個人情報の管理 □財務環境の適正管理 <ul style="list-style-type: none"> ・正確な会計処理 ・業者選定会議への保護者参加 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察・マスク着用・手指消毒・換気等の基本的な感染予防の徹底と、緊急事態・まん防に対応した活動の調整により、校内感染は起きていない。 ・デジタル化によるインク代、紙代の節約により、およそ100万円、修繕費(カーテン等)や備品費(マシン等)に流用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室は次年度は確保できそうだが、放課後児童クラブの場所確保をお願いしたい。 ・マスクの着用が定着している。フェイスガードとの併用もちゃんとできている。 ・予算を有効活用して子どもに還元できている。デジタル化によるメリットの部分を保護者にもどんどん公開すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数増加に備え、必要教室数の確保について、検討を継続する。 ・新型コロナウイルスの基本的な感染予防を徹底するとともに、情報を適切に管理し二次被害が起きないように配慮する。 ・デジタルを活用した予算の有効活用、業者選定、会計処理の透明化を推進する。
災害や事故等、多種多様な非常事態に対する安全性の確保をする	<ul style="list-style-type: none"> □地域防災対応の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアル見直しと周知 ・東門利用の引き渡し訓練の実施 ・地域防災訓練への児童参加 □災害・事故情報の周知見直し <ul style="list-style-type: none"> ・警察等関係機関との連携強化 ・HP、メール、端末での複線化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・東門利用の引き渡し訓練を行うとともに、学級・学年閉鎖にもなる引き渡しもスムーズに行えた。防災訓練への児童の参加は、コロナ禍で訓練中止のため行えず、残念であった。 ・メールにURLを載せ、HPとの連携やアンケートの集計を行った。HPの閲覧数は2000人/日あり、市内でも有数である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数年先、校舎増築のため、再び東門への通り抜けができなくなるのはいかがなものか。地域防災訓練への子どもたちの参加は、ぜひ実現したい。 ・頻繁にホームページが更新されるので学校の様子がよく分かる。出欠席もメール等で行えないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域性を加味した命を守る訓練の実施と、総合的な学習(5年:防災)、自治会連合会との連携等により、子どもたちの防災に対する視点を広げる。 ・T-comp@ssと連携した「スマート連絡帳」を、保護者連絡手段のひとつとして、有効利用する。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/ichihashi-e/>